

2012年1月25日

札幌市長
上田文雄 殿

旧「王子サーモン館」の保存に関する要望書

社団法人 日本建築学会北海道支部
支部長 角 幸博

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の活動につきましては、多大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

貴職におかれましては、札幌市における文化財保護活用、都市景観形成をはじめとするまちづくりの施策を思慮されていることと存じます。

さて、旧「王子サーモン館」は北1条西1丁目における明治以降の都市景観を残す歴史的建造物として極めて重要であり、本支部では本建物の今後の処遇をたいへん危惧しております。旧「王子サーモン館」は、昭和24年（1949）に札幌で戦後初の耐火建築として注目され、札幌市、北海道、農林省の好意的な援助で建築許可を受け、北海道ホルスタイン会館として、木田建業株式会社の施工で建築されました。

本建物は、次の点で極めて稀少でかつまた優れた建築であり、札幌の建築文化財ならびの都市景観を考え、今後のまちづくりを進める上で不可欠な建築であると言えます。

第一は、明治以来の北海道における基幹産業である酪農を支える北海道ホルスタイン会館として、昭和24年（1949）に竣工した耐火性能を有する事務所建築であり、窯変色の焼き過ぎれんがを用いたれんが造で、1階事務所と2階会議室の平面形式、木造クイーンポストトラスを用いた断面形式、集合煙突や急勾配の屋根、開口部飾などの立面形式、全体にわたる細部意匠など、他に例のない極めて貴重な歴史的建造物であり、完成から50年以上経ていることから札幌市、北海道だけでなく国レベルの建築文化財としての価値を有すると判断できます。

第二には、敷地である北1条西1丁目地区は、札幌市が進める創世1・1・1区で、創成川整備と連続するものであり、東向かいの札幌教会（旧美以教会）を含め、かつては関場邸、旧今井商店本店、正見病院、札幌酪農牛乳株式会社工場などの建物群があったことを後世に伝える唯一の区域であり、旧「王子サーモン館」とともに歴史的・文化的価値を有する地域資源であり、これからの観光資源として活用できる価値を十分に有しています。

貴職におかれましては、この貴重な建築のもつ高い文化的意義と歴史的価値についてあらた

めてご理解いただき、このかけがいのない文化遺産が後世に継承されますよう、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本支部といたしましては、この建築文化財の歴史的価値を学術的に調査し評価するとともに、耐震補強を含めた保存活用計画および修理修繕計画の策定や、再開発計画における整備計画の立案に、可能な限り協力させていただく所存であることを申し添えます。

敬具

2012年1月25日

創世1・1・1区北1西1地区市街地再開発準備組合

理事長 上田文雄 殿

旧「王子サーモン館」の保存に関する要望書

社団法人 日本建築学会北海道支部

支部長 角 幸博

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の活動につきましては、多大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

貴職におかれましては、札幌市における文化財保護活用、都市景観形成をはじめとするまちづくりの施策を思慮されていることと存じます。

さて、旧「王子サーモン館」は北1条西1丁目における明治以降の都市景観を残す歴史的建造物として極めて重要であり、本支部では本建物の今後の処遇をたいへん危惧しております。

旧「王子サーモン館」は、昭和24年（1949）に札幌で戦後初の耐火建築として注目され、札幌市、北海道、農林省の好意的な援助で建築許可を受け、北海道ホルスタイン会館として、木田建業株式会社の施工で建築されました。

本建物は、次の点で極めて稀少でかつまた優れた建築であり、札幌の建築文化財ならびの都市景観を考え、今後のまちづくりを進める上で不可欠な建築であると言えます。

第一は、明治以来の北海道における基幹産業である酪農を支える北海道ホルスタイン会館として、昭和24年（1949）に竣工した耐火性能を有する事務所建築であり、窯変色の焼き過ぎれんがを用いたれんが造で、1階事務所と2階会議室の平面形式、木造クイーンポストトラスを用いた断面形式、集合煙突や急勾配の屋根、開口部飾などの立面形式、全体にわたる細部意匠など、他に例のない極めて貴重な歴史的建造物であり、完成から50年以上経ていることから札幌市、北海道だけでなく国レベルの建築文化財としての価値を有すると判断できません。

第二には、敷地である北1条西1丁目地区は、札幌市が進める創世1・1・1区で、創成川整備と連続するものであり、東向かいの札幌教会（旧美以教会）を含め、かつては関場邸、旧今井商店本店、正見病院、札幌酪農牛乳株式会社工場などの建物群があったことを後世に伝える唯一の区域であり、旧「王子サーモン館」とともに歴史的・文化的価値を有する地域資源であり、これからの観光資源として活用できる価値を十分に有しています。

貴職におかれましては、この貴重な建築のもつ高い文化的意義と歴史的価値についてあらた

めてご理解いただき、このかけがいのない文化遺産が後世に継承されますよう、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本支部といたしましては、この建築文化財の歴史的価値を学術的に調査し評価するとともに、耐震補強を含めた保存活用計画および修理修繕計画の策定や、再開発計画における整備計画の立案に、可能な限り協力させていただく所存であることを申し添えます。

敬具

旧「王子サーモン館」についての見解

北海道大学名誉教授 角 幸博（建築史意匠学）

札幌市中央区北1条西1丁目2番地に所在する旧「王子サーモン館」建物は、北海道ホルスタイン会館として、昭和24年(1949)年6月18日着工、同月30日地鎮祭、7月30日上棟式を経て、11月に完成し、同年12月1日に開館記念式をあげた。札幌で戦後初めて建つ耐火建築として、当時の耳目を浴び、札幌市、北海道庁、農林省資材調整事務所等の、好意的な援助で建築認可もおりたという。

棟札等の資料は残らないが、記録（機関誌ホルスタイン No.1）によると、施工は木田建業株式会社で、田中正幸が担当した。田中正幸は、池田酪農協力会（昭和13年設立）会長田中勇（昭和13年～17年）の子息であった。ホルスタインに理解ある勇の息子の関与ということで、木田建業が選ばれたという。建設費は、650～660万円であった。

建物敷地は、札幌酪農牛乳株式会社取締役社長築山泰藏の協力で、同社からの99年間の借地であった。敷地は、その後昭和36年6月に雪印乳業株式会社、同39年10月王子製紙株式会社、平成17年9月王子不動産株式会社の所有となった。

建物は、れんが造2階建てで、西妻側に煉瓦積みの集合煙突をみせ、9.5寸の急勾配の屋根が特徴的である。軒の出のほとんどない建物で、軒蛇腹と妻面のモルタルドイツ壁仕上げの三角破風の白色塗装と、窯変色の焼き過ぎれんがとの司祭的対比が特徴的な事務所建築である。

正面入口周りの額縁や縦長窓の楣(まぐさ)や窓台には軟石が使用され、玄関額縁はこぶ出し仕上げ、窓上下の石材は小叩き仕上げと仕上げを変えている。

1階床面積170.77㎡、2階床面積166.46㎡、延べ床面積337.23㎡で、創建当初は、1階は20坪の事務所と書庫、1階事務室部分には、創建時のものと考えられる天井蛇腹や持ち送り（ブラケット）が残されており、2階は大会議室（西側、5間四方）と中小会議室3室で構成されていた。開館記念式は、この大会議室で挙行された。

小屋組は木造クイーンポストトラス構造である。当初は小屋裏利用も計画されたかのような大空間であり、旧大会議室境の壁しにあたる部分に両開きの鉄扉が遺存することから、内部も将来的には防火的配慮したものとも考えられる。

旧「王子サーモン館」（北海道ホルスタイン会館）の有する建築史的価値、歴史的価値、都市環境的価値として、次のようにまとめることができる。

1. 創世1・1・1区の歴史を伝える唯一の歴史的建造物である。

創世1・1・1区は、大規模な再開発計画が進められる北1条西1丁目地区で、歴史ある創成川に隣接し、東向かいの札幌教会（旧美以教会）と対面する地区で、かつては関場邸

(5番、大正15年、田上義也設計)、旧今井商店本店(3番、大正8年~10年東京移転)、正見病院(2番、明治42年、大正1年から谷口眼科病院、昭和3年頃移築)、札幌酪農牛乳株式会社工場(2番、昭和7年、指田工務所請負)などが所在していたが、現在は全くその面影はなく、本建物だけが唯一、この地区の歴史を伝えてくれる。本建物をこの地区の歴史を伝える語り部として活用することは、歴史を大切にしてきた札幌市の基本姿勢とも合致し、歴史を活かした再開発プロジェクトとしても大きく位置づけられるものと考えられる。

2. 札幌における戦後初の耐火建築である。

本建物は、木田建業株式会社が手がけたれんが造事務所建築である。木田建業の前身は、木田組であるが、重要文化財大谷派東本願寺函館別院(大正元年)や今井百貨店(大正14年、札幌)、札幌グランドホテル(昭和8年、札幌)などのほか、北海道における昭和期の鉄筋コンクリート造建設の中心的な建設業者であった。そうした経歴と、北海道ホルスタイン種生産農業協同組合とも縁が深い田中正幸の在職とが、本建物を請け負う大きな理由であったが、同社の昭和15年までの工事履歴には、れんが造は一件もみあたらず、木田建業の作品の中で異色の事務所建築ともいえるものであった。

3. 個性豊かな都市景観を創出する上で希少な資産の一つである。

札幌市は、デザイン、様式が特徴的な建造物や市民や観光客から親しまれている建造物や樹木などの歴史的な景観資源を大切に継承し、個性豊かな景観を形成するために、札幌都市景観資産として独自に指定し、保存と活用を図る施策を展開し、豊かな都市景観を創出する上で大きな成果をあげている。札幌市が関与している再開発地区にある本建物は、歴史と共存しつつ個性豊かな都市景観を創出する上で、格好の資源であり、札幌市民とともに歴史への深いまなざしを育成することのできる財産であり、また観光資源としても有効に活用できる可能性を有している。

以上述べたように、本建物は、歴史的、建築史的、都市環境的観点からも、貴重な資産であり、創世1・1・1区の再開発計画では、これまで札幌市が進めてきた景観行政の範を自ら示す希少な機会であることも付しておきたい。

